

06-02-22 村岡

〔意見〕 利水ダムの転用について

利水ダムの治水容量への転用については次の二つの考え方がある。

- (1) 利水容量の設定見直しによる転用
- (2) 出水前に水位を一定量下げることによる対応（これまで委員会で検討）

ここでは（ 1 ）による転用を考える。

検討の前提となる考え方：

- 1) 水道用水のある利水ダムとする。
- 2) 計画給水人口の算定に用いた原単位（ 1 人 1 日あたりの利用水量）を、利用実績を勘案して見なおした余剰水量を転用容量とする。

各市の配水稼働率

	A		B		C	C / A	C / B
	計画給水量		実績配水量		1 人 1 日平均	配水稼働率 %	
	1 人 1 日最大	1 人 1 日平均					
宝塚市	479 ㍓(平 17)	383 ㍓(平 17)	311 ㍓(平 15)			64.9%	81.2%
西宮市	598 ㍓(平 4)	478 ㍓(推定)	343 ㍓(平 16)			57.4%	71.8%
尼崎市	444 ㍓(平 16)	386 ㍓(平 16)	351 ㍓(平 16)			79.0%	90.9%

この表において配水稼働率 C / B は 70 ~ 90 % となっている。

これより計画給水量は現実の水使用量に対し、過剰に見積もられていることが判る。従って各利水ダムの利水容量をこの稼働率（ 80 % とする）を乗じた量程度に見なおすことができる。（註 1：尼崎市は流域内利水ダムを利用していないので、事実上、上の値は関係ない。）

青野ダム	9,300,000 立米	7,440,000 立米
千苅ダム	11,612,000	8,290,000
川下川ダム	2,650,000	2,120,000
丸山ダム	2,052,000	1,640,000
深谷ダム	1,040,000	832,000
山田ダム	173,831	139,000

この減量（ 540 万立米）に対する各利水ダムにおける水位の低下量は、各ダムの水位 / 貯水量曲線が手元では判らないため、予想できない。しかし、青野ダムの場合、常時満水位から約 2 ㍓の低下量になるとみられる。

将来、水需要が現在以上に低下するならば、また給水人口が長期的にみて減少するならば、利水容量は上記の予想量より更に減ずることが可能とみられる。

以 上